



満開の梨の花（4月中旬）

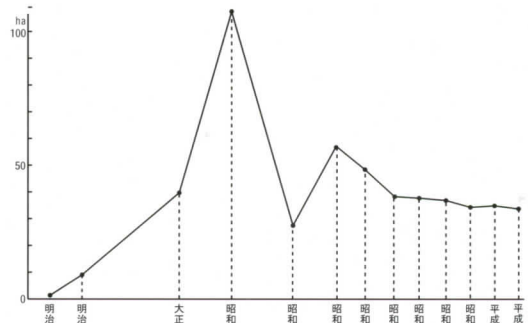
### 昭和40年代以降の梨づくり

昭和40年代に入ると、梨の生産・販売は、ゆるやかな下降線をたどるようになります。農業従事者の減少、後継者不足などの問題や、農地そのものの減少などを原因として、栽培面積は年を追うごとに減り続けていますが、宅配便による地方配送や街頭販売などによって、稲城の特産物として現代に生き続けています。平成7年（1995）現在の梨の栽培面積は、3,526アール、栽培農家数は124戸です。

### 梨の品種

現在稲城で栽培されている梨の品種は約20種類、次頁の表のような内容となっています。主な品種は、多摩、幸水、稲城、清玉、豊水、新高などです。栽培される梨は、系統選抜により赤梨系と青梨系に分かれ、さらに肉質や甘味・酸味などにより品種が異なります。稲城で誕生した品種は、稲城（東長沼の進藤益延氏作出）、清玉（東長沼の川島琢象氏作出）、新泰平（別名加弥梨、東長沼の加藤弥三氏発見）、吉野（矢野口の原田正治氏発見）の4種です。

参考文献、『稲城市史』『稲城ものづくりII』



稲城の梨栽培面積の推移『稲城市史下巻』より作成

## 梨の1年間の作業暦

作業項目	おもな作業内容
剪定・誘引 11月中旬～3月上旬	樹冠全体の光線の確保、収穫量の確保、受粉・摘果・袋掛け等の作業を容易にすることなどのために枝芽を間引く。一般に若木は弱剪定、老木は強剪定する。品種によって結果習性に差があるので、その性質を理解して剪定する。仕立て方は、本来は立木仕立てが望ましいが、落果を防ぐ目的などにより棚仕立てにしている。棚の架設方式は甲州式という。風害を防ぎ、枝の勢力を調節し、梨棚を平均的に利用するために枝を誘引する。
病虫害防除 3月中旬～12月 人工受粉 4月中旬～下旬	薬剤散布だけでなく、健全な樹体の維持、よい環境づくり、病虫害の発生密度を少なくするなど総合的に考えて防除計画を立てている。稲城独自の梨病虫害の防除暦がつけられている。減農薬、選択性農薬、性フェロモン（害虫交信攪乱剤）などで、環境や安全を重視した低農薬栽培で、農薬散布数を少なくしている。人工受粉は、自家不和合性のため違う品種の花粉で受粉する。最近では中国からの輸入花粉も使われている。花粉の準備は薬取器、開薬器を使い共同作業で行う。受粉は受粉器を使わず凡天棒で行なう。
摘らい 4月中旬 摘果 5月～6月上旬 袋掛け 5月中旬～6月中旬	摘らいは適正なつぼみの数に制限すること。貯蔵養分の消費を防ぎ、果実、枝葉の初期成長を良くし、摘果・人工受粉などの作業効率をよくするために行う。摘果は良い果実を生産するために果実の数を制限すること。落花後7日～40日で行う。袋掛けは果実を病虫害や鳥などから保護し、果実の外観をきれいに仕上げるために行う。梨の品種により袋の種類と大きさが違う。また袋掛けの時期は青梨が先で、その後に赤梨に掛ける。
芽かき 新梢誘引 4月下旬～7月 灌水 3月下旬～4月 7月中旬～9月	芽かきは徒長枝になると予想される新梢をかき取ること。樹冠の日照不足、果実の品質低下、花芽の着正不良、病虫害の発生助長などを防ぐために行う。新梢誘引は花芽をつきやすくするため、翌年の花芽の保護のために行う。人工受粉前の灌水は受精率を高め、初期の発育をよくするために行う。梅雨あけ直後から晴天が続くと高温・乾燥障害が発生するので、これを防ぐ目的で行う。
防鳥対策 7月下旬～10月 施肥 6月～7月上旬 9月中旬～10月 11月下旬～1月上旬	梨園全体に網をかけて、むくどり、おなが、ひよどり、すずめ、からすなどの鳥から守る。花火・鐘なども使われる。追肥（6～7月）は、新梢の発育停止期後に果実が急速に肥大する時に果実の発育を助ける目的で行う。秋肥（9～10月）は収穫の終わった時期に、樹の疲れを回復させ貯蔵養分を蓄えさせて翌年の初期生育を良くするために行う。元肥（11月～1月）は施肥の中心で、骨粉、魚粉、菜種粕、大豆粕などの有機配合肥料が多く使われる。土壌改良のために堆肥も多く使われる。同時に深耕も行う。

※この作業暦は、川島実氏資料により作成。また作業暦の内容・時期は平均的なものです。

## 稲城の梨の品種と特徴

種類	収穫時期	交配	肉質	甘味	酸味	備考
長寿(赤)	8月上旬～中旬	旭×君塚早生	やや粗い	中ぐらい	無い	極早生品種。栽培者少ない
多摩(赤)	8月上旬～下旬	祇園×幸水	軟らかく多汁	多い	少ない	肉質幸水よりやや硬い
幸水(赤)	8月下旬～9月上旬	菊水×早生幸蔵	軟らかく多汁	多い	少ない	消費者人気高い
新世紀(青)	8月下旬～9月上旬	廿世紀×長十郎	粗くやや硬い	薄い	やや有る	
旭(赤)	8月下旬～9月上旬	偶発発生	中ぐらい	中ぐらい	無い	栽培者少ない
○稲城(赤)	8月下旬～9月上旬	新高×八雲	軟らかく多汁	やや多い	無い	消費者人気高い
長十郎(赤)	9月上旬～下旬	偶発発生	粗く硬い	多い	無い	
廿世紀(青)	9月上旬～下旬	偶発発生	軟らかく多汁	中ぐらい	やや有る	日持ちが良い
○清玉(青)	8月下旬～9月下旬	廿世紀×長十郎	中の上	中ぐらい	無い	稲城で誕生した梨
菊水(青)	9月上旬～下旬	太白×廿世紀	軟らかく多汁	多い	有る	
秀玉(青)	9月上旬～中旬	菊水×幸水	軟らかく多汁	多い	少ない	新品种のため栽培者少ない
豊水(赤)	9月中旬～下旬	菊水×八雲	軟らかく多汁	多い	有る	消費者人気高い
新高(赤)	9月下旬～10月上旬	天ノ川×今村秋	軟らかく多汁	やや多い	無い	人気高く貯蔵性がある
○新泰平(青)	10月上旬～中旬	偶発発生	軟らかい	薄い	無い	「かや梨」。栽培者少ない
○吉野(赤)	10月上旬～下旬	偶発発生	軟らかい	薄い	有る	栽培者少ない
新星(赤)	10月上旬～中旬	翠星×新興	軟らかく緻密	やや多い	少ない	新品种のため栽培者少ない
新雪(赤)	10月下旬～11月上旬	晩三吉×今村秋	粗い	少ない	少ない	貯蔵性有るが栽培者少ない
秀峰(赤)	10月下旬～11月上旬	晩三吉×今村秋	中ぐらい	少ない	少ない	貯蔵性有るが栽培者少ない
新興(赤)	10月下旬～11月上旬	晩三吉×今村秋	軟らかい	やや多い	やや有る	貯蔵性有るが栽培者少ない
愛宕(赤)	10月下旬～11月上旬	廿世紀×今村秋	良好	多い	少し有る	栽培者少ない

○印は稲城市で誕生した梨、東長沼川島実氏提供資料より作成。